

## 2 主題について

- (1) 本主題のねらいは、自分自身を多面的に見ることで自分の特徴に気づき、その中でも特に、自分のよいところを見つけていこうとする態度を育てることである。

1年生の子どもたちは、発達段階から見ても、自分自身を客観視することが十分にできるとは言えない。実際に、自分のよくないところにばかり目がいき、自分にはよいところがないと決め込んでしまっていたり、自分のよさを素直に認められなかったりする子どもたちがいる。

そこで、そのような子どもたちに、自分のよいところを多面的に見ることができるようになっていくことが大切である。そうすることで、自分のよいところに気付くとともに、自分に自信をもつことができ、さらに自分自身を高めていこうとする態度へとつながっていくのである。

- (2) 本主題に関する子どもの実態は次の通りである。(調査人数36人)

① 「自分によいところがあると思うか」という質問に対して、「ない」と答えた子どもが11人いた。その理由として、「分からない」と自分自身のことを考えたことがない子どもや、「友達に嫌なことをする」といった自分のよくないところに目が向いている記述が見られた。

② 「自分のよいところを見つけるためにどうすればいいか」という質問に対して、「自分の生活を振り返る」「自分のいいところを増やす」「友達に聞く」と書いている子どもが1人ずついた。残りの子どもは、「優しくする」もしくは「分からない」と答えていた。これらのことから、今までの生活で自分のよいところを見つけるような経験をしていないことが分かる。

- (3) 教材について

本教材は、次のような内容である。自分にはよいところがないと思っている主人公のあいちゃん。友達のともちゃんによいところを聞くと、手があったかいところだと言われる。そして、ぞうきんを使った後に冷たくなった友達の手を握ってあげていたところ、自分の手も冷たくなってしまふ。自分のよいところがなくなってしまったと傷つくあいちゃんだったが、ともちゃんから自分の手が冷たくなるまでみんなの手を握っていた優しさが一番よいところだと言われ温かい気持ちになる。そんなともちゃんの優しさに触れ、自分も友達のよいところを見つけていこうと心に決めるという話である。

あいちゃんが自分にはよいところがないと思うことは、子どもも共感できると考える。そして、その時の気持ちと自分によいところがあると気付いた時の気持ちとを比較することを通して、よいところに気付くと自分に自信がもてるということを考えることに適した教材である。

- (4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

① 導入では、自分のよいところなどのアンケート結果を提示し、今の自分をどう捉えているか見つめ直させる。そして、もっと自分をよりよくしていきたいという思いを高め「自分をよくするためにどうすればいいだろう」というめあてを設定する。

② 挿絵やキーワードとなる言葉をカードで提示することで、場面の状況や登場人物の心情の変化を把握しやすくする。まず、自分にはよいところがないと思っている主人公の気持ちを考えさせる。ここでは、自分のよくないところに目が向いており、自分に自信がないことを引き出し、自分を肯定的に受け止められない気持ちに共感できるようにする。

③ 登場人物が自分のよいところに気付いた場面に焦点化し、そのときの気持ちをグループで話し合わせる。その際、インタビューなどの方法を用いて考えてもいいようにしておく。

④ よいところがないと思っていた時と、よいところを言ってもらった時の気持ちを板書で比較したり、自分のよいところに目を向けていくための問い返しをしたりすることで、道徳的価値に迫ることができるようにする。

### 3 本時の学習

#### (1) ねらい

あいちゃんが、ともちゃんに優しいところが一番のよいところだと言われた時の気持ちについて話し合うことを通して、自分や友達の良いところを見つけていこうとする態度を養う。

#### (2) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考
1 学習の見通しをもつ。	5	○ アンケート結果を提示し、もっと自分をよりよくしていきたいという思いを高め次のめあてを設定する。  自分をよくしていくためにどうすればいいだろう	事前アンケート
2 教材「ええところ」を読んで話し合う。  (1) あいちゃんが、よいところがないと思っている時の気持ちを考える。  (2) ともちゃんに「優しいところがよいところ」と言われた時のあいちゃんの気持ちについて話し合う。	25	○ 読み聞かせの後に、挿絵やカードを提示しながら場面の状況や登場人物の心情の変化を把握しやすくする。  よいところがないと思っているとき、あいちゃんはどんな気持ちだったのだろう  ○ 導入で取り上げたアンケートと関連させ、あいちゃんの思いに共感できるようにする。  「優しいところが一番のよいところ」と言ってもらった時、あいちゃんはどんな気持ちだったのだろう  ○ あいちゃんの気持ちの変容が分かるように、最初の場面と比較しながら板書で可視化する。 ○ 「あいちゃんはどのように変わったのだろう」と問うことで「自分によりよいところがあると気付くことにより、自分に自信がもてる。」など、道徳的価値を多面的・多角的に捉えることができるようにする。	挿絵カード  学習シート  学習シート
3 自分のよいところを周りの人から言ってもらったことについて考える。	10	自分のよいところを周りの人から言ってもらったことがありますか。その時、どんな気持ちでしたか。  ○ これまでの経験と関連付けながら考えるようにすることで、道徳的価値のよさを実感できるようにする。  【評価】 自分や友達の良いところを見つけていこうとする思いをもつことができる。(発言・シート)	学習シート
4 本時の学習を振り返る。	5	○ 学習シートに今日の授業で考えたことなどを書かせ、これまでの自分を振り返らせる。学習を通して高まった思いを生活とつなげられるような声かけを行う。	学習シート

#### 4 指導の実際

##### (1) 今の自分について話し合う。

※ 事前に、本時で扱う内容項目に関するアンケートを取っておきます。

発問  
アンケートを見て、気付いたことがありますか。

- C 自分のよいところがないと思っている人がいる。
  - C 今まで自分のよいところが何かを考えたことがない。
  - C 自分にはよいところがあるのかな。
  - T 今の自分をどうしていきたいですか。
  - C よくないところを全部よいところに変えたい。
  - C 今の自分のことを知って、よくしていきたい。
- ※ 学習への方向付けであり、多くの時間をかけないようにします。  
※ 自分をよりよくしていきたいという思いを引き出すようにします。

めあて  
自分をよくしていくためにどうすればいいだろう。

##### (2) 教材「ええところ」を読んで話し合う。

- ※ 読み聞かせの後に、挿絵やポイントとなる言葉を書いたカードを提示することで、場面の状況を分かりやすくします。
- ※ 登場人物の心情や行為の理由について考えさせる時間を十分に確保するため、あらすじについての問いかけはやめましょう。



挿絵『どうとく1年』東京書籍

##### ① あいちゃんがよいところがないと思っている時の気持ちを考える。

発問  
よいところがないと思っている時、あいちゃんはどんな気持ちだったのだろう。

- C 自分にはいいところがないから、いいところがあるといいな。
  - C いいところがなくて悲しい。
  - C 友達にはいいところがあるのに、なんで自分だけいいところがないのかな。
  - C 自分はだめだな。
- ※ 「自分にはよいところがない」と、後ろ向きに捉えている主人公の気持ちに共感することが、道徳における人間理解を深めることにつながります。



インタビューをする子どもたち

- ※ 登場人物の心情を考える際には、役割演技や動作化、インタビューなどを活用することも有効です。子どもが、そのような活動を通して考えたいという思いをもたせることが大切です。
- ※ インタビューのよさとしては、その人物になりきって気持ちを考えやすいことや、答えたことに対して「どうしてそう思ったのですか？」とさらに聞くことで、考えについての理由を詳しく説明しなければならない状況を作ることができることです。
- ※ 役割演技は、登場人物の気持ちを考えるきっかけとしたり、周りのみんなに自分の考えを伝えたりするために行います。教材の中心場面で取り入れることも多いです。演技をした子どもだけでなく、見ていた子どもに感想を言わせると、違う視点での気持ちが出てきます。

② ともちゃんに「優しいところがよいところ」と言われた時のあいちゃんの気持ちについて話し合う。

発問

「優しいところが一番のよいところ」と言ってもらった時、あいちゃんはどうな気持ちだったのだろう

※ 一番子どもたちに考えさせたい場面です。考える時間を確保します。

C 自分にはいいところがあったんだ。

C あったかい気持ちになった。

C うれしいではなく、もっとうれしい。

T もっとうれしいとはどういうことですか。

C 手が温かいだけでなく、優しいところもいいところと言われて、それが重なってもっとうれしくなった。

C 手は、最初はあったかくても冷たくなったりして消えちゃうけど、優しさは自分がしようとしていることだから、それを見つけてくれたから、そっちの方がうれしいと思う。

※ 子どもの発言に立ち止まり、「どうしてそう思うのか」と問い返すことで、道徳的価値に迫ることができます。

T 自分にはよいところがないと思っていた時と、よいところがあると思った時では、自分に対する考え方はどのように変わったのだろう。

C 自分はだめだと思っていたけど、自分にいいところがあると思って自分っていいなと思った。

C もっと自分のいいところを見つけていこうと思った。

※ 心情の変化を対比的に板書で可視化することにより、子どもが考えるための手助けとします。

(3) 自分のよいところを周りの人から言ってもらったことについて考える。

発問

自分のよいところを周りの人から言ってもらったことがありますか。その時、どんな気持ちでしたか。

C えー、そんなことあったかな。

C 帰りの会で、友達にいいところを言ってもらってうれしかったし、自分のことを考えてくれていたんだなと思った。

C おばあちゃんから、お手伝いをした時に、優しいところがいいねとほめられた。

※ 学んだことが教材で閉じないように、これまでの自分の生活と関連付けながら、道徳的価値のよさを実感させることが大切です。

※ 最初は思い出せなかった子どもも、友達の話聞くことで、自分の生活経験と関連付けて考えることができます。

(4) 本時の学習を振り返る。

C 前までは「私はいいところが1つもないから悲しいな」と思っていたけど、この授業をしたから「いいところがあったんだ」と思いました。これからもいいところを見つけていきたいです。

※ 道徳ノートや学習シートに、「授業で考えやこと」や「これまでの自分」、「これからなりたい自分」などの視点で振り返りを書かせるようにします。この記述を評価で活用していきます。

※ 教師による説話も効果的です。しかし、今後の生活への意識付けを図るようにし、教師の思いや考えを押し付けないようにしなければなりません。

(宮原 大輔)